令和元年度　食指導研修会

健康教育部

＜日時＞令和元年７月１０日（水）

12:10~12:50　給食参観指導

13:40~15:00　事例検討

15:00~15:30　担任・摂食指導担当者との懇談

＜講師＞千木良デンタルクリニック　副院長　千木良あき子先生

給食参観指導

小学部Ａさん、
小学部Ｂさんの
給食の様子を参観
していただきました。

担任・摂食指導担当者との懇談

＜小学部Ａさん＞

相談内容：①不随意運動のある児童への口唇閉鎖　②水分摂取の支援の仕方

指導・助言：①について

〇話を理解する力があるので、「食具を噛まないで食べよう。」と伝え、短い時間でよいので口唇閉鎖の練習を行う。できたときは、褒める。

〇扱いやすいスプーンを使い、口唇の真ん中から入れることを意識するような言葉かけをする。

〇口唇閉鎖の練習として、「息をふいてものを飛ばす」「口唇にものを挟んで引っ張り合う」など、児童に合わせてやってみる。

②について

〇飲み口のふちが短いコップ、カットアウトコップを使用する。

〇教師の支援を受けて、おわんやカットアウトコップ、スプーンを使って飲む（すする）練習をするとよい。

＜小学部Ｂさん＞

相談内容：本人に合った食形態に向けての課題

指導・助言：〇食具を使うのは一番難しい動作。自分で食べたいという本人の気持ちに寄り添いながら、教師が食べさせて口唇閉鎖の練習時間を取り入れるとよい。

〇口唇閉鎖をしながら正しく食べ物を摂り込むことが大切。口唇の真ん中から食べ物を摂り込むことが必要。その動きがしやすい食具を使う。

〇かじりとりの練習に取り組む。

小学部Ｃさん、Ｄさん、中学部Ｅさん、Ｆさん４名について、ビデオを見ながら事例検討を行いました。

＜事例検討Ｃ＞　小学部Ｃさん

相談内容：食事の姿勢、口唇閉鎖の介助の仕方

指導・助言：〇姿勢は専門知識のある方の指示に従う。

〇摂り込み時は舌の動きが止まったときに上唇が下りるよう口唇閉鎖の介助をする。

〇飲み込み時は顎の動きが止まって口唇を閉じるよう介助をする。

＜事例検討Ｄ＞　小学部Ｄさん

相談内容：咀嚼回数を増やす指導

指導・助言：〇次の一口を入れるタイミングが大切。

〇かじりとりのできるサイズに切り、練習をする。

〇虫歯のある児童生徒は噛むと痛みを感じるため、あまり噛まずに食べる傾向にある。歯を磨く、歯の治療をするに課題があると思うが、できたらたくさん褒めて達成感を味わわせていく。

＜事例検討Ｅ＞　中学部Ｅさん＞

相談内容：本人に合った食形態

指導・助言：〇家では普通食を食べているが、学校では今しかできない口唇閉鎖などの練習を３食のうちの１回でも練習して欲しい。

〇本人の様子、保護者や担任の考えなど様々な要因を総合的に見て食形態については判断する必要がある。

その他のアドバイス

〇口唇閉鎖ができたら褒める、マナー面（口の周りを清潔に保つ、皿の扱い方など）で成長できる支援をしていく。

＜事例検討Ｆ＞　中学部Ｆさん

相談内容：①食事動作による疲れの軽減　②マナーの向上

指導・助言：①について

〇左腕が疲れやすいので、テーブルの高さを工夫する、腕を支えるものを置く。食事の姿勢を整える。

〇本人に合ったスプーン・フォークを提供する。

〇今後緊張が強まる（弱まる）などの身体の変化が訪れたときに、今までの良い食べ方ができた経験を思い出すことができるように、様々な選択肢を提示し、試していく。本人の受け入れと保護者の理解が前提となるので、丁寧に行っていく。

②について

〇本人の身体機能も見ながら、言葉で軟らかくアドバイスしていく。